

みまや小だより

教育目標
やさしい子
かしこい子
たくましい子

いわき市立御厩小学校長 鈴木 英直



感染症対策

先週は、インフルエンザやマイコプラズマ肺炎などの感染症の罹患児童が多数でした。そのため、先週は「特別日課」で他学年との接触を避け、早めの下校となりました。今週に入り感染症の罹患児童が大幅に減り、安心しているところです。保護者の皆様には急な対応でしたが、ご理解とご協力をいただき、誠に感謝申し上げます。



持久走記録会

本年度の持久走記録会は、体育の授業の中での実施となりました。感染症のため延期になった学年もありましたが、全学年無事に終えることができました。その中でも多数の保護者やご家族の方々の応援ありがとうございました。子どもたちも精一杯、自己記録更新を目指し走りきっていました。

さて、保護者の方がお帰りになった後、数個の空き缶が校庭にのこされていました。後片付けは当事者の義務です。まして子ども達の学びの場では、あってはならないことだと思います。今後、注意していただければと思います。よろしくお願ひします。

前回の後編

子どもの困り感の対処法

1 見える化と構造化

情報の理解と処理を助ける支援方法には、言葉だけの説明より、「見える形」で示すことで、子どもの理解が格段に進むことがあります。

- カレンダーやスケジュール表で予定を見る化する
- 手順表やチェックリストを活用する
- 場所や物の配置を明確にする
- 視覚的な教材を活用する
- 自分を理解し、好きになる気持ちを育てて、長い目で見て支援をすること

↓ その子の特性に合った情報の伝え方をすること

- ・得意・不得意を理解し受け入れる
- ・自分に合った対処法を見つける
- ・「できた」体験を積み重ねる
- ・強みに着目した関わりをする

つまり、困り感があっても「自分はこういう特性を持った大切な存在だ」という自己肯定感が育まれると、困難を乗り越える力が大きく育ちます。

2 家庭での工夫

家庭では次のような工夫をしてみると良いのではないでしょうか。

- 目で見てわかる予定表を使う
- 片付けの仕組みを作る
- 感覚特性に合わせて環境を整える

3 学校での工夫

学校でも次のような工夫をしています。

- 指示の出し方を工夫する（視覚的、簡潔に）
- 課題の量や難しさを調整する
- 休憩できる場所や時間を確保する

※保護者の方にお伝えしたいのは、これらの工夫は「特別扱い」ではなく「その子に必要なサポート」だということです。

4 困り感を理解するために

- 行動をよく観察する
- 本人に話を聞く（できる場合）
- 保護者や先生から情報を集める
- 実際の場面での困り感をチェックする

※大切なのは、「できないこと」だけでなく「できること」「好きなこと」も同じくらい丁寧に把握することです。

私たち大人が子どもの困り感を理解し、適切な支援をすることで、子どもたちは自分の特性を理解し、自信を持って成長していくでしょう。